

西洋建築史第12回

新古典主義—古典古代との決別

中島 智章

序.オーダーの様々な比例

●Roland FRÉART DE CHAMBRAY:^{ロラン・フレアール＝ドゥ＝シャンブレ}『^{『古代建築と現代建築の比較』}Parallèle de l'architecture antique et de la moderne, Paris, 1650, 1702.

→第1部:ギリシア由来の三種のオーダー(ドリス、イオニア、コリント)

+第2部:ローマ由来とされるトスカナ、コンポジット

→古代の実例×3

+10人の近現代の建築家が提唱したオーダー比例

PALLADIOvs^{スカモッツィ}SCAMOZZI, SERLIOvs^{バルバロ}VIGNOLA, BARBAROvs^{カタネオ}CATANEO(ウイトルウィウス『建築十書』を注釈者)、ALBERTIvsVIOLA, BULLANTvsDE L'ORME(16世紀のフランス人建築家)

1.古代と現代の比較—絶対的な美と恣意的な美—

●PERRAULT兄の建築理論

Claude PERRAULT:^{『ウイトルウィウス建築十書』}*Les dix livres d'architecture de Vitruve, corrigez et traduits nouvellement en François, avec des Notes et des Figures*, Chez Jean Baptiste COIGNARD, Paris, 1673.

idem:^{『古代人の方法による5種類の円柱の秩序』}*Ordonnance des cinq especes de colonnes selon la methode des anciens*, Paris, 1681.

●新旧論争(Querelle des Anciens et des Modernes)

「^{アンシアン}古代派(les Anciens)」と「^{モデルヌ}現代派(les Modernes)」の論争

Nicolas-François BLONDEL vs Les frères PERRAULT

絶対的な美＝根拠のある美(^{ボーテ・ポジティヴ}Beauté positive) vs 恣意的な美＝根拠のない美(^{ボーテ・アルビトレール}Beauté arbitraire→^{アンステイテュシオネル}institutionnelle)

●ヴェルサイユ宮殿の鏡の間→天井画主題の変遷、天井画銘句の言語の選択、フランス式オーダー

2.建築の源流を求めて—啓蒙時代の建築理論—

●「原始の小屋」と建築の三要素

Marc-Antoine LAUGIER(1713-69):*Essai sur l'architecture*, 1755→円柱、梁、切妻＝建築の三要素

Marc-Antoine LAUGIER:『建築試論』、三宅理一訳、中央公論美術出版、東京、1986年。

ルーヴル宮殿東側ファサード列柱廊→構造材としての円柱の使用

vs ALBERTIの『建築論』における建築の六要素＝地域、床面、分割、壁、覆い、開口(第1書第2章)

●フランスの新古典主義建築

Ange-Jacques GABRIEL(1698-1782):士官学校(1751-68)

ルイ15世(コンコルド)広場(1757~)←ルーヴル宮殿東側ファサード列柱廊の影響

小トリアノン離宮(1761-68)、ヴェルサイユ宮廷歌劇場(-1670)

Jacques-Germain SOUFFLOT(1713-80):サント・ジュヌヴィエーヴ聖堂(パンテオン、1755)←LAUGIERの建築理論

Étienne-Louis BOULLÉE(1728-99):ニュートン記念堂計画案(1784)→巨大な球体で宇宙を表現

Claude-Nicolas LEDOUX(1736-1806):アルケ・スナン王立製塩所(1773-79)→ショーの理想都市

ラ・ヴィレットの関門(1784-89、パリ入市徴税門)

^{シャルル・ベルシエ}Charles PERCIER(1764-1838)+^{ピエール・フランソワ・レオナルド・フォンテーヌ}Pierre-François-Léonard FONTAINE(1762-1853):ルーヴル拡張計画

カルーゼル凱旋門(1806-07)

3.発掘の成果から新古典主義建築へ

●古代遺跡の発掘と再評価

ヘルクラネウムとポンペイの発掘、パエストウム、アテネなどの遺跡巡り

→古代建築図面集の出版

アントワーヌ・デゴデ 『ローマの古代建造物』
Antoine DESGODETS(1653-1728): *Edifices antiques de Rome*, 1682.

ジュリアン・ダヴィッド・ル・ロワ 『ギリシアの最も美しい記念建造物の廃墟』
Julien-David LE ROY(1724-1803): *Les Ruines des plus beaux monuments de la Grèce*, 1758.

ジェイムズ・「アテナイ人」・ステュアート ニコラス・リヴェット 『アテナイの古代遺物』
James "Athenian" STUART(1713-1788)+Nicholas REVETT(1720-1804): *Antiquities of Athens*, 1762.

ヨーハン・ヨアヒム・ヴィンケルマン
Johann-Joachim WINCKELMANN(1717-1768): *Gedanken über die Nachahmung der griechischen Werke in Malerei*

und Bildhauerkunst, 1757=『ギリシア芸術模倣論』

ジョヴァンニ・バッティスタ・ピラネージ 『ローマ人たちの壮麗さと建築について』
Giovanni-Battista PIRANESI(1720-1778): *Della magnificenza ed architettura de' Romani*, 1761.

●グreek・リヴァイヴァルの出現

古代ローマ建築ではなく、古代ギリシア建築の比例のオーダーを使用する(ずんぐりむっくり)

ドイツ語圏諸国で盛んであり、フランスではあまりみられないが・・・

→数少ない例外がLEDOUXの建築=16世紀イタリア・マニエリスム様式+グreek・リヴァイヴァル

ex) アルケスナン王立製塩所

●イギリスの新古典主義建築

ロバート・アダム ジェイムズ・アダム
Robert ADAM(1728-92)+James ADAM(1730-94): サイオン・ハウス改修(1760-69)

ジョン・ナッシュ
John NASH(1752-1835): ロイヤル・パヴィリオン(1815-23、ブライトン)、リージェント・ストリート(1819-25、ロンドン)

ジョン・ソーン卿
Sir John SOANE(1753-1837): イングランド銀行(1791-1833)、ソーン自邸(ソーン博物館、1812-13)

●ドイツのグreek・リヴァイヴァル

ダーフィット・ジリー フリードリヒ・ジリー
David GILLY(1748-1808)→Friedrich GILLY(1772-1800): フリードリヒ大王記念堂案(1797)

Karl Friedrich SCHINKEL(1781-1841): ベルリン王立劇場(1818-21)、アルテス・ムゼウム(1823-30)

Leo von KLENZE(1784-1864): グリプトテーク(1816-34、ミュンヘン)、ヴァルハラ(1831-42)

プロピュレイア(1848-60、ミュンヘン)

4.風景式庭園と廃墟の美学

●17世紀の庭園

→フランス式庭園の幾何学性

→特定の「眺望点:point de vue」から軸線に沿って眺める

←Louis XIV自らが編纂した『ヴェルサイユ庭園案内法』

●18世紀の新たな庭園様式

→イギリス式庭園=風景式庭園のpicturesque=絵画的性

→池や植込、パヴィリオンを回遊しながら眺める

←「自然に帰れ」=啓蒙思想家のJean-Jacques ROUSSEAUのスローガン

+異国趣味(シワズリー=中国風趣味によるロココ装飾、サンジュリー=猿がはね回るロココ装飾、その他)

+廃墟趣味(古代建築の廃墟を人工的に制作)

●Lancelot "Capability" BROWN(1715-83): ブレナム宮殿付属庭園(1764~)

バン・ブーラ ウィリアム・ケント
←VANBRUGH+William KENT(1685-1748)のあとを受けて、風景式庭園に改造する

リチャード・ミック
Richard MIQUE(1728-94): ヴェルサイユの小トリアノン離宮付属庭園(1778)

アモー
農村風パヴィリオン=hameau(1780-86)